

CSR委員会・社外委員からのコメント

CSRの重要方針の立案・推進と取り組みの検証を目的として、「CSR委員会」を3カ月に1回開催しています（P.33参照）。同委員会では3名の社外委員から「社外からの目」で意見をいただき、委員である社内の役員とともに議論を重ねています。2011年度の議論を踏まえた、社外委員からのコメントを紹介します。



シャープ株式会社 相談役
辻 晴雄

CSR委員会でのコメントから

これから大変厳しい経済環境が予想される中、勝ち抜くポイントは、幹部の皆さんの当事者意識、危機意識だ。また、お客様の立場に立って自分を律する「自律」と、厳しい中でも受け身でなく能動的に、体を張って目標をやり遂げる「自立」が必要だ。

“攻め”と“守り”の両面から、より一層のブラッシュアップを

昨年3月の東日本大震災以降、住まいや生活の安心・安全やエネルギー問題に対する世の中の意識が高まる中、各企業で様々な取り組みがなされましたが、積水ハウスは、これにいち早く応えるべく、「グリーンファースト ハイブリッド」や、分譲地の住民の絆を深め、防災に強いまちづくりを目指す「隣人祭り」など、先を見据えたハード、ソフトの両面の事業活動を推進され、高い評価を受けています。

一方で、昨年も、いくつかの企業でガバナンスに関わる不正や不祥事が起こりました。これを防ぐためには、監視体制と内部統制システムの両輪を整備することと併せて、職場での「コミュニケーション」と「コンプライアンス」と「リスクマネジメント」の3つを自主的に考え、適切に実行できる現場力の向上に努めなければなりません。

グローバルに激変する経営環境の中、積水ハウスにおいても、常にステークホルダーの目線に立って、“攻めのCSR”と“守りのCSR”をブラッシュアップし、新たなイノベーションの創出によって、さらなる企業価値の向上に取り組まれるよう期待しています。



甲南大学 特別客員教授
加護野 忠男

CSR委員会でのコメントから

これまでのまちづくりでは、まさに同世代が集まっていたため、住民の高齢化とともにまち全体が老化していた。「マストライフ 古河庭園」のような多世代交流型のまちは、多様な世代の住民が生活するため、まちが老化しにくい。

知恵を使い、人口減少社会に歯止めを

最近の業績を見ると、積水ハウスグループはまさに順風満帆です。CSRが単に社会貢献につながっているだけでなく、会社の業績にもプラスの影響を及ぼしています。CSRと事業との間に良い循環が生まれていると言えるでしょう。このような良い循環が生まれている例は日本でもあまりありません。自信を持っていただいよと思います。しかし、長期を考えると、喜んでばかりもいられません。日本が人口減少社会になるのは確実だからです。海洋国家ベネチアは、長い繁栄の後、人口減少に苦しみました。それが没落の前奏曲となったのです。人口減少は積水ハウスグループにとって脅威です。新築住宅の需要が縮減する可能性があるからです。新たな住宅は必要がなくなるかもしれません。これから積水ハウスグループのCSR活動で重要なのは、人々がもっと多くの子どもを産めるような環境を作る活動です。この点でできること、なすべきことはたくさんあります。知恵の使いどころと言えるでしょう。

ビジネスの上でもやるべきことがあります。仮に新築住宅の需要が減っても会社を成り立たせていくことができるように、リフォームやサービスなどの事業で顧客に価値を提供できるようにしておくようお願いします。



弁護士
加納 駿亮

CSR委員会でのコメントから

CSの取り組みをすでに高いレベルで実施されている。この先、さらにレベルを高めていくためには、「不断の努力」が必要だ。現場のリーダーから繰り返し部下に話すことにより、教育をしっかりと行っていただきたい。

東日本大震災・福島原発事故から1年に寄せて

昨年3月11日の東日本大震災と福島原発の事故から1年。世界中の眼が日本に注がれた1年でした。地球環境の保全と電力需給の問題を考える上で、3月11日は、世界の人々の記憶に深く刻まれる日となりました。我が国は、電力供給源を原発に依存する割合が高い国です。今や、全原発の稼働停止による全国レベルでの電力不足を想定した節電の要請に加え、電気料金的大幅値上げも必至な情勢で、国民生活と産業経済に極めて重大な問題が生じています。こうした困難に直面した今こそ、あらゆる分野でその克服に向けての努力が必要です。エネルギー資源に乏しい我が国には、世界に誇れる省エネ・創エネ・蓄エネの先進的技術があります。積水ハウスは、いち早く、この点に着目し、住宅用に太陽電池・燃料電池・蓄電池を設置してシステム化したスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」の普及を強力に推進し、着実にその成果を上げて来ました。まさに、時代の変化を先取りしたものといえましょう。企業におけるCSR活動も、こうした先見性と揺るぎのない実行力こそがその推進の原動力なのです。